

たばこ火災低減対策に関する論点メモ

資料5

RIPたばこの火災抑制効果及び
規制導入の要否について

導入によりどの程度効果
が見込まれるか

導入に伴う社会的コスト
等をどう考えるか

導入に向けた社会的気運
が高まっているか

資料4

タバコ火災に係わる出火原因の
他の要素に着目した対策について

着火物の対策

経過の対策

低延焼性たばこを導入した場合に推測される影響等について

〔一般社団法人日本たばこ協会作成〕

● 社会全体

- (1) 「火災安全たばこ」とのミスリードに伴い、消費者の注意意識が低下することもあると考えられる。
- (2) 火種落ちが増大することが考えられる。 ⇒ 火傷・火災等の被害増の恐れ
- (3) 消費者クレームの増加 ⇒ (例) イギリス市場におけるRIP製品導入後のクレーム数：約40倍¹
 - ・ 立消えの増加
 - ・ 小売価格上昇
 - ・ 喫味上の変化

● たばこ産業関連

- (1) 国内製紙メーカーが当該規格に対応するための技術開発・装置導入や特許料にかかる相当程度の追加コストが発生すると推測される。
 - ・ 対応できない場合は同市場から撤退 ⇒ 雇用への影響
- (2) 輸入紙巻きたばこを扱う特定販売業者（7社、90銘柄²）の製品においてRIP規格への対応ができない場合、該当業者は同市場より撤退せざるを得なくなると推測される。
- (3) 巻紙調達や喫味調整等に係る製造コスト増加が仮に小売価格に転嫁されれば、消費者の負担増加が推測される。

1 RIP製品市場導入後3ヶ月間の平均値との比較(JTインターナショナルデータ)

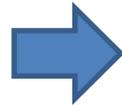
2 2013年7月末現在(一般社団法人日本たばこ協会データ)

着火物の対策

布団等の現状*

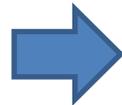
【敷き布団の材質】

- 中心にポリ100%、上下にポリ50%、羊毛50%のもの



全体の約50%

- 中心にポリ100%、上下に綿70%、ポリ30%のもの



全体の約20%

- その他

- ・綿100%布団
- ・ウール100%布団
- ・ポリ100%布団 等

※ポリ100%のものが近年増加傾向



全体の約30%

【かけ布団の材質】

- ・羽毛 ・ポリエステル ・羊毛 ・綿
- ・絹(シルク) ・羊毛+ポリエステル
- ・綿+ポリエステル

【側地の材質】

ほぼ100%が綿である。

【シーツの材質】

- ・夏物の多くは綿である。
- ・冬物はアクリルやポリエステル製が多いが、綿のものもある。

* 全日本寝具寝装品協会の推計

着火物の対策

〔【寝具類】の防災ラベル交付状況〕 (単位 枚)

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
敷布・カバー類	101,949	110,166	156,818	181,534	174,125
ふとん類	100,850	91,082	81,160	78,668	127,698
毛布類	218,460	244,850	243,000	1,662,351	775,329
寝具類 合計	421,259	446,098	480,978	1,922,553	1,077,152

(公財)日本防災協会データ

〔布団流通枚数〕 (単位 千枚)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
布団流通枚数	19,687	20,815	20,667	22,397	21,872

経済産業省・繊維統計データより抜粋

「燻焼」は着火物(布団)の違いにより差がでることが資料4で示された。一方、火災予防に効果があると見込まれる防災布団は、布団全体の0.5%程度しか流通していないと見込まれる。



発火源がたばこの火災の場合、着火物が布団類であることが多いことから、たばこ火災低減のため、防災布団をはじめとする防災寝具類の普及促進を図っていくべきではないか。

経過の対策

寝たばこ防止の啓発活動

寝たばこ防止ポケットティッシュの配布等

秋の火災予防週間 781,540個

春の火災予防週間 700,825個

